

産学公連携プロジェクト（高知県立大学井本研究室、高知県茶業試験場、高知県工業技術センター、全農こうち、コスモス農協）

2012 年度

2011 年度

2010 年度

2009 年度

<p>高知県茶業試験場</p> <p>茶（土佐茶）分析</p>	<p>茶（土佐茶）分析 茶指標作成準備</p>	<p>茶指標作成（旨味、渋味）等</p>	<p>茶指標作成（旨味、渋味、水色、香り）、等</p>
<p>高知県立大生活デザイン学科（井本・川口・篠原・学生）</p> <p>官能検査 飲料消費調査 茶生産農家調査</p>	<p>土佐茶（煎茶）試作販売「茶楽々」</p> 	<p>土佐茶「CHARARA」企画販売「煎茶」「ほうじ茶」</p> 	<p>土佐茶周年生体制モデル構築 土佐茶「CHARARA」企画販売「煎茶」「ほうじ茶」「釜炒り番茶」「秋冬番茶」「生分解ティーバッグ」</p>
	<p>土佐茶を使った暮らし提案しおり</p> 	<p>土佐茶を使った暮らし提案 土佐茶 BOOK 土佐茶カクテル 土佐茶の菓子教室</p> 	<p>土佐茶を使った暮らし提案 食育、等</p>
<p>中止</p>			

この産学公連携プロジェクトは、土佐茶のブランド化・普及を通じて茶生産農家が意欲をもって茶生産の継続がはかれる可能性を探るものでした。そして、2012年度の土佐茶（CHARARA）プロジェクトでは、1番茶から秋冬番茶までの生産・販売を中心に可能な総所得の見通しを原価計算を踏まえながら提示することを目指していました。

しかしながら、大学で重要な役割を果たしてきた非常勤教育職員の雇用が2011年度末で中止され、2教員を中心とした土佐茶（CHARARA）プロジェクトの継続が困難となったため、2012年度末に予定していた報告書は作成されませんでした。

とはいえ、2011年度までの土佐茶（CHARARA）プロジェクトにおいて、大学の専門性（デザイン・企画力）＊を生かし、茶関係者や地元の専門家が協力して事業展開すれば、茶収入の中心となる1番茶の製茶販売やほうじ茶を通じたブランド化・普及を成功裡におこなうことができる地域力があることが明らかとなりました。

＊生活デザイン学科は、高知県では2012年度末に廃止されました。